

## (仮称) 熊本県総合防災航空センター新築設計に係る指名型プロポーザル公開審査 審査員長講評

本公開審査は前日の熊本に上陸した大型台風の影響があつたにもかかわらず大勢の方々が県内外からお集まり、見守っていただきましたおかげで、非常に白熱した場となりました。

プロポーザルに参加の皆さまは、大きな模型を運ばれるのも含めて準備に御苦労されたと思いますが、どのチームも素晴らしいプレゼンテーションをしてくださりありがとうございました。主催者一同、本当に頭のさがる思いです。力作5案の中から、最優秀賞1点、優秀賞1点、佳作3点という順位を決めなければならないのは大変つらいところです。

審査結果は、最優秀賞に『小川次郎+アトリエ・シムサ』、次点の優秀賞に『福島加津也+富永祥子建築設計事務所』、発表順に『陶器浩一』、『古森弘一建築設計事務所』、『S A L H A U S』を佳作とさせていただきました。

『小川次郎+アトリエ・シムサ』の案は、審査員の全員一致で最優秀賞に決定されました。この案は、構造、ボリュームの操作、プランニング、すべてにおいてデザイン性と機能性とのバランスがとれていることが高く評価されました。

私個人としては、空港の一角にこの建築が置かれたときのたたずまい、周囲の風景にじっくりくるように思えました。景観条例への対応という点からも、勾配のある屋根は非常に良い景観をもたらすであろうと思われれます。若干が気になっていますのは、開口部のつくり方であり、ややデザイン性を過剰に意識されているようにも思います。また、運行管理室と防災消防航空隊事務室の空間連携に関しては修正が必要であるのではという点に関しては現プランニングの延長上で再配置可能であると判断されました。このようなことが論議対象となりましたが、総合的に全審査員の賛同を得る高評価を得たということがあります。

優秀賞の『福島加津也+富永祥子建築設計事務所』の案は、福島氏が再三にわたって述べられたように即物美の追求であり、ジープのようにデザイン的に過剰なことは一切避け、できるだけシンプルにということが明快に伝わる簡潔で力強い提案であつたと思います。内部空間において、木構造が感じられたときに、『小川次郎+アトリエ・シムサ』の案は割合軽く見えるのに対し、この案は木のストラクチャーが迫ってきてやや息苦しくなるような感じがあるのではないかという意見も聞かれました。コンクリートと木構造で非常に合理的にできてはいるのですが、諸室のプランニングがあまりにも素っ気ない印象を与えがちであることも批評の対象になりました。

佳作の3案につきましては、それぞれに素晴らしい点があります。発表順にコメントいたします。

『陶器浩一』の案は、陶器氏がどちらかといえば構造のエンジニア、構造家であるため、構造の組み方は特徴的であり、シンプルで大変素晴らしいと思いましたが、全体のボリュームが大きすぎるのではないかという意見がありました。特に、中央に一番高い部分を持ってきて、その吹抜け空間が例えば訓練に供したり、訪問者がまず入って感激したりするということですが、果たして今回求められているのかという疑問が残りました。この部分にあ

まりお金を費やす余裕はないのではないかということから、残念ながら上位2点に及ばなかったということです。

『古森弘一建築設計事務所』の案は、他案にはない魅力的なところがありました。特にエネルギーの問題を中心にデザインを展開した点については高い評価をしております。しかしながら、審査員の共通した意見として、全面的に用いられているガラスという素材が果たしてどうなのかということがあります。もちろん木をカバーするという保護的な意味でメンテナンス性はいいとも言えますが、一方で日常的なメンテナンスはどうなるのかといった問題もあり、台風に襲われて何かものが飛んできたときにどうかという心配もあります。また、十分検討はされているとは思いますが、二つの部分を共通に覆っている大きな屋根がわずかな柱で支えられており、屋根が完全に硬いものとして成立するのかという疑問も若干残るところです。

『SALHAUS』の案は、ボルトを連続させるという際だってユニークな提案で魅力的なデザインでしたが、お洒落すぎるのではないかと、今回の施設に本当にボルト空間がふさわしいのかといった意見がありました。また、低層部でボルトの連続するシステムはいくつも谷樋をつくることになるので、熊本の多雨な気候で降灰も心配される場所で問題が生じる可能性を払拭できないという意見がありました。もし、これが空港ビルで、高層部のボルトの連続する屋根が実現できたら素晴らしいのにとこの声も聞かれました。プランニングの構成は、非常によくできていたという評価がありました。

審査の中で提案が「お洒落」なデザイン過ぎないかどうかという表現の質疑がありましたように、限られた予算の範囲内で、地場産材を活用した木造を取入れ、環境に配慮し機能的で機動的な空間の要求とデザイン性を如何に対応せるか、そのバランスをどのように考えるかは今回の提案で重要なテーマであったように思われます。最優秀案は、その兼ね合いが高く評価されたものです。

以上、簡単ですが、審査結果・講評とさせていただきます。なお、このプロジェクトは地元の設計事務所とJVを組みまして現場で使用される方々の意見を十分に聞き入れながら実施設計にあたることを申し添えておきます。

最後になりましたが、大変な労力を費やしてプロポーザルに参加していただいた建築家の皆様、公開審査にお集まりいただいた方々に改めて感謝いたします。

また、アートポリスプロジェクトに参加してくださった熊本県消防保安課、熊本県防災消防航空センター、熊本県警察本部の皆さま方に厚く御礼申し上げます。

審査員長（くまもとアートポリスコミッショナー）  
伊東 豊雄